

{ 2018年7月登録決定 }



世界文化遺産

長崎と天草地方の
潜伏キリシタン関連遺産

12

お お う ら て ん し ゅ ど う

大浦天主堂

Oura Cathedral

ガイドマップ



| 大浦天主堂 | の価値

I 宣教師不在と キリシタン「潜伏」のきっかけ

II 潜伏キリシタンが信仰を 実践するための試み

III 潜伏キリシタンが共同体を 維持するための試み



★長崎で26人の宣教師とキリシタンが処刑される(日本二十六聖人の殉教) 1597

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」全体の価値における位置づけ

- ◎「大浦天主堂」は、「潜伏」が何をきっかけとして終わったのかを示す構成資産です。
- ◎宣教師との接触という、「潜伏」が終わるきっかけとなる「信徒発見」の場所です。

《基本情報》

文化財の名称	大浦天主堂	旧羅典神学校	南山手伝統的建造物群保存地区	大浦天主堂境内
種 別	国宝	重要文化財	重要伝統的建造物群保存地区	史跡
指 定 年	1933年	1972年	1991年	2012年
所 在 地	長崎市南山手町			

教会堂 拝観案内

【拝観時間】 8:00～18:00(受付は17:30まで)

【拝 観 料】 大人1,000円、中高生400円、小学生300円(団体は各100円引き)

※「20名以上」で団体料金適用となります。ただし、
小グループの修学旅行生も全て団体割引となります。

大浦天主堂

〒850-0931 長崎市南山手町5-3 TEL.095-823-2628

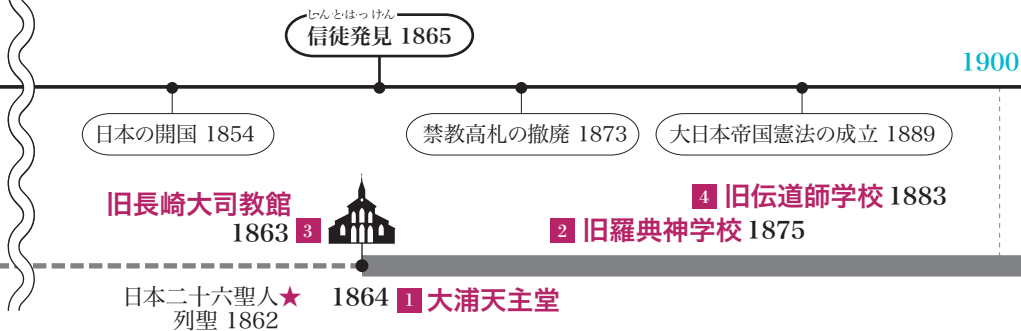
<http://www.1bbiq.jp/ourahp/>

大浦天主堂

検索



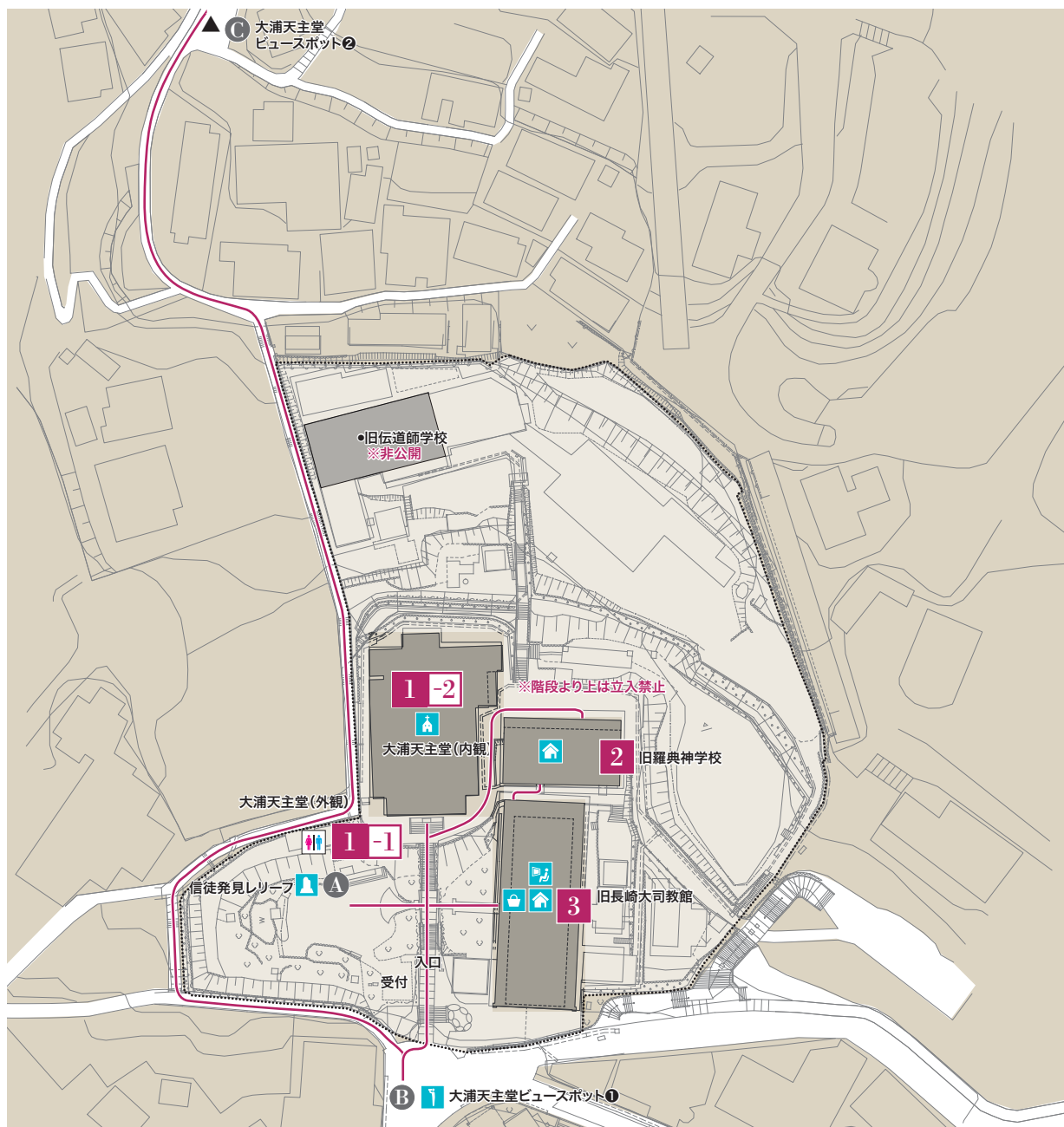
IV 宣教師との接触による 転機と「潜伏」の終わり



歴 史

- ◎大浦天主堂**1**は、19世紀の日本の開国に伴って長崎にできた居留地の外国人のために、1864年にフランス人宣教師が建てた教会堂です。
- ◎境内地には、まず1863年に神父が居住する司教館**3**が建てられました。
- ◎大浦天主堂は、16世紀に長崎で殉教した日本二十六聖人の殉教地の方角に向けて建てられています。
- ◎献堂直後の1865年、長崎近郊の潜伏キリシタンが、ひそかに大浦天主堂を訪れて、宣教師に自分たちの信仰を告白しました。
- ◎日本のキリシタンが、2世紀ぶりに宣教師と再会したこの出来事は、「^{しんとはっけん}信徒発見」とよばれています。
- ◎この出来事は、直ちに各地の潜伏キリシタン集落に伝わり、集落の指導者はひそかに大浦天主堂を訪れて宣教師と接触しました。
- ◎宣教師との接触は、潜伏キリシタン集落に転機をもたらし、禁教下にもかかわらず信仰を表明した潜伏キリシタンには、厳しい弾圧が加えられました。
- ◎しかし、諸外国の抗議を受けた明治政府は、1873年に禁教を解きました。
- ◎解禁を受けて、大浦天主堂では、境内に羅典神学校**2**や伝道師学校**4**を設置して、日本人の宣教師や伝道師を養成し、教理指導のため長崎と天草地方の潜伏キリシタン集落へ派遣しました。羅典神学校や伝道師学校は、転機を迎えた潜伏キリシタンのカトリックへの復帰を促しました。

|大浦天主堂|のマップ



《推奨ルート》

A → 1-1 → 1-2 → 2 → 3 → B → C

..... 構成資産範囲

— 徒歩または
自動車等で移動

トイレ

展示

ビューポイント

関連の建物

..... 徒歩で移動

0 重要ポイント

A その他のポイント

ショップ

碑(モニュメント)等

教会堂

| 大浦天主堂 | の重要ポイント案内

1

-1

おおうらてんしゅどう がいかん

大浦天主堂(外観)



①



創建当時の大浦天主堂(江崎べっ甲店所蔵)

大浦天主堂は、1864年に建てられました。1875年と1879年に増築され、現在の姿となりました。外壁には白い漆喰が塗られていますが、煉瓦造の教会堂です。正面上部には、日本人にも理解できるように漢字で「天主堂」と書かれています。神父は禁教下でもひそかに信仰していた信徒がいることを期待していました。

1

-2

おおうらてんしゅどう ないかん

大浦天主堂(内観)



①



「信徒発見」を描いた挿画
(ヴィリヨソ著「日本聖人鮮血遺書」)

堂内の中央部は創建当時のままであり、脇祭壇のマリア像の前で「信徒発見」が起きました。「信徒発見」のニュースは、長崎と天草地方の潜伏キリシタン集落に伝えられ、各指導者がひそかに大浦天主堂を訪れて、組織的にカトリックへ復帰する準備が整っていきました。

教会堂の見学マナー

教会堂は大切な祈りの場ですので、見学マナーを守り、厳粛な雰囲気の中で心静かに過ごしてください。

- 堂内では帽子を脱ぎ、静かに拝観してください。
- 堂内にある物にはふれないでください。
- 柵内、内陣(祭壇域)には入らないでください。
- 堂内での飲食、飲酒、喫煙は厳禁です。
- 堂内の写真撮影は禁止です。



2

きゅうらてんしんがっこう

旧羅典神学校



①

この神学校は、1875年に日本人神父の養成のために建てられました。1879年に初の卒業生を送り出すと、1882年には再宣教後初の日本人司祭が誕生します。1883年には70名の神学生が在籍しました。卒業生は、司祭として各地の潜伏キリシタン集落に派遣され、カトリックへの復帰を促す原動力となりました。現在は「キリシタン博物館」として、「信徒発見」に関する展示を行っています。

3

きゅうながさきだいしきょうかん

旧長崎大司教館



②

この場所には、宣教師の居住のために初代司祭館が1863年に建てられました。現在の建物は、1915年に初代司祭館の老朽化により建て替えられたものです。現在は「キリシタン博物館」として、日本のキリスト教史に関する展示を行っています。

3

きゅうでんどうしがっこう

旧伝道師学校



中島政利著「福音伝道者の苗床」

この学校は、1883年に日本人伝道師の養成のために建てられました。伝道師は、宣教師に代わって各地の信徒に教理を伝える役割を担いました。

「大浦天主堂」のその他のポイント案内

A しんとはっけん 信徒発見レリーフ



①

「信徒発見」の様子を表したレリーフです。

B おおうらてんしゅどう 大浦天主堂ビュースポット①



①

大浦天主堂と旧長崎大司教館（右側手前）と旧羅典神学校（右側後）が一望できます。

C おおうらてんしゅどう 大浦天主堂ビュースポット②



①

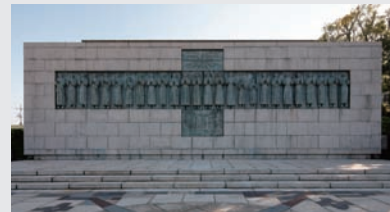
長崎港に面して外国人居留地があり、大浦天主堂は、その丘の一角に、1597年に長崎で殉教した日本二十六聖人の殉教地の方向に向けて建てられました。

にほんにじゅうろくせいじんじゅんぎょうち 日本二十六聖人殉教地

1597年、宣教師や信徒ら26人がキリスト教の信仰を理由に処刑され、1862年に列聖されました。26人の中には、外国人6人や10代の少年3人が含まれています。建築家の今井謙次氏と彫刻家の舟越保武氏が殉教地を後世に伝えるため、記念の教会堂とレリーフの建築を手がけました。

《基本情報》

文化財の名称	日本二十六聖人殉教地
種別	県指定史跡
指定年	1956年
所在地	長崎市西坂町



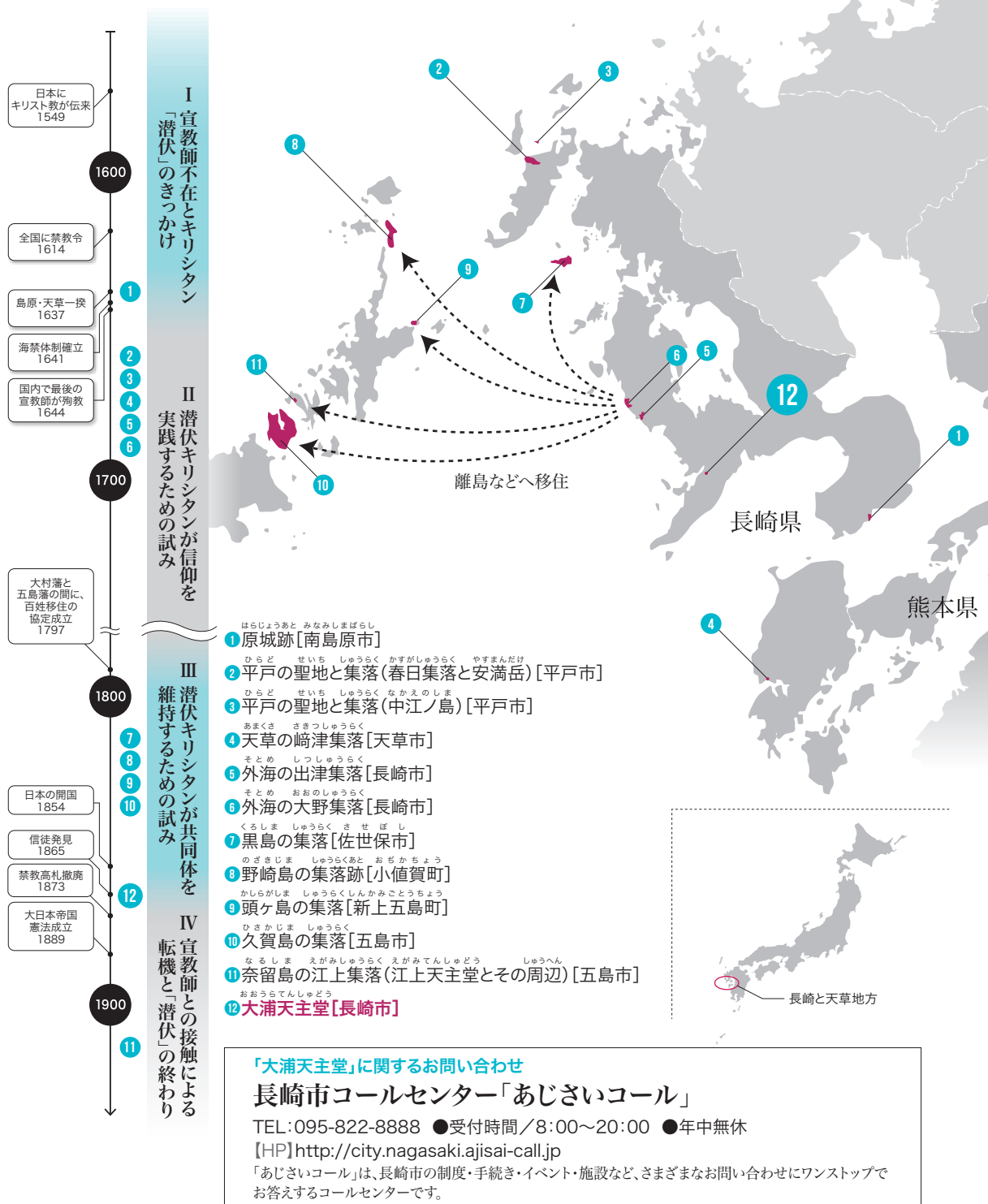
②

にほんにじゅうろくせいじんきねんかん 日本二十六聖人記念館

ザビエルによる日本での宣教から弾圧、日本二十六聖人の殉教、潜伏、解禁後まで、日本におけるキリスト教の歴史を紹介しています。1546年のザビエルの書簡や踏絵と同じ型のピエタ、潜伏キリシタンがひそかに拝んでいた「雪のサンタマリア」など、貴重な資料が世界中から集まっています。

- 所在地／長崎市西坂町7-8 Tel:095-822-6000
- 開館時間／9:00～17:00
- 休館日／年末年始のみ
- 入場料金／一般500円(400円)、高校生・中学生300円(200円)、小学生150円(100円)
※カッコ内は20人以上の団体料金





企画・発行／長崎県、熊本県、長崎市、佐世保市、平戸市、五島市、
南島原市、小値賀町、新上五島町、天草市

潜伏キリシタン遺産 検索 <http://kirishitan.jp>

撮影協力／①池田 勉、②日暮 雄一

2018年7月発行



国際連合教育科学
文化機関



長崎と天草地方の
潜伏キリシタン関連遺産
世界遺産登録年:2018年